

## 第1回南陽市・高畠町合同林野火災再生プロジェクト会議 会議録(要旨)

●日時: 令和6年8月26日(月)午前10時~11時15分

●場所: 南陽市役所4階大会議室

●出席者21人 ・南陽市長 ・高畠町長 ・山形大学 ・林野庁置賜森林管理署 ・米沢地方森林組合  
・山形県置賜総合支庁: 森林整備課、河川砂防課、環境課  
・高畠町: 農林課 ・南陽市: 総合防災課、建設課、商工観光課、農林課

1開会(10:00)

進行:南陽市農林課長補佐

2挨拶

◇南陽市長

・本プロジェクト会議は、4月下旬から5月上旬にかけて両市町で発生した大規模林野火災において、農林水産副大臣視察の際、隣接した両市町が定期的に情報交換し森林再生を果たしてほしいと提言を受け実現。今後、地元の方々から秋葉山に寄せる思いや、市民の憩いの場、よりよい景観づくりに向けて、国県をはじめ関係するの方々のお知恵を拝借しながら中長期にわたる再生事業に注力していく。

◇高畠町長

・4月末から5月上旬にかけて、高畠町安久津地内蛭沢湖の北東を中心に合計8回の林野火災が発生、そのうち2件の焼損面積が約40ha と10ha の大規模火災となった。今後は、同時期に林野火災が発生した南陽市との連携を図り、国県の方にご支援をお願いしながら、山林再生に向け事業を展開していく。

3出席者紹介(進行)

4意見交換 座長:南陽市長

①現状認識

◆市総合防災課(林野災害の概要説明)

焼損面積: 122ha(確定値)

被害状況: 非住家7棟(秋葉山山荘2棟、トイレ1棟、物置4棟)

工作物6基(ソーラー設備、付帯設備、仮設トイレ2基、木製看板等3基)

◆市農林課(農林被害等の概要説明)

焼損森林: 約102ha(うち人工林: 約20ha、天然林: 約82ha)

山林以外: 約 20ha(耕作農地3,500㎡のうち作物被害は、西洋梨10本、りんご4本の葉焼け被害が1か所(420㎡)残りの面積は耕作放棄地や山林など)

所有者アンケート: 所有者:37人→35人(焼損なし2人) 回答者:33人(94%)

他会社倒産1件、郵送済み1件。自力再生は困難等消極的な意見多数。

◆町農林課(林野災害の概要説明)

令和6年4月22日~5月11日にかけて8回の林野火災

焼損面積: 約50ha

焼損森林: 約20ha(うち人工林: 約4ha、天然林: 約16ha)

◆県置賜総合支庁森林整備課

・南陽市については、6月から7月10日にかけてドローンによる現況調査実施。再生会議出席。7月2日山形大学野堀先生と植生調査。7月10日森林研究研修センターと焼損区域の調査とプロット設定。

現地調査の現況について、プロット3カ所の状況

①秋葉山荘付近…木本類、草本類すべてが焼失、リョウブなどの実生を確認。

②秋葉山荘上部のコブ付近…下層植生が焼失、リョウブなどの木本の実生やナラ類の萌芽発生。

③秋葉山山頂下部付近…木本類や草本類が焼失、ナラ類の萌芽発生。

・高畠町については、5月30日ドローンによる現況調査実施。再生会議出席。7月12日に植生回復現況調査。7月17日ドローン現況調査。8月現況調査の業務委託発注。

ナラ類の萌芽発生。土砂の流出が心配されたが7月の雨を受けても土砂の流出ほとんどなし。

◆県置賜総合支庁河川砂防課(南陽市建設課説明)

・5月15日に土砂災害警戒区域を設定している沢3本(大沢、内原沢1、宮内沢9)の流域調査を実施。流域に焼け落ちた堆積厚は2cm程度で土砂災害を誘発するなど心配するほどの量ではない。

・7月9日(7日8日の降雨後)、15日(11日の大雨警報発令後)に調査実施。9日は山荘付近で焼失厚が1cm程度で雨により灰の部分が締まった。ため池への灰の流出や土砂の流出はなし。15日は状況変化なく焼失物の流入や土砂の流入は確認できなかった。

・7月25日の大雨後の26日に調査。焼失厚が1～2cm程度で変化なく土砂の流出は確認できない。引き続き継続調査を行っていく。

◆県置賜総合支庁環境課

- ・市建設課から6月補正予算対応の道路や駐車場の設置工事についての許可申請あり7月24日付で許可。
- ・トイレの撤去については再生整備の妨げになるため早ければ9月補正を目指し検討を進めている。

□山形大学名誉教授(今後の土砂流出等の可能性もあり、現段階での暫定解析報告)

■焼失区分

・置賜総合支庁森林整備課で撮影作成したオルソ画像を基に目視による観察・解析の結果、「全層焼失」3箇所、面積1.10ha。「上層焼失」16箇所、面積30.58ha。「一部焼失(下層焼失)」面積89.52ha(全体から全層と上層を引いた面積)の3つに区分した。

■火災斜面の方位(南側に多く北側にはほとんど確認されない)

・全層火災の範囲は南側に多く北側斜面にほとんどない。最寄りの気象観測から期間中降水量がほとんどなく、南よりの比較的強い風が常時吹いていたことがわかる。南からの風が斜面を駆け上がるように吹き上げて尾根付近で火勢が強まったと思われる、その結果尾根付近の南側斜面で全層火災が多かったと思われる。

■森林再生事業の優先順位

- ・第1要因を火災の強度・・・全層、上層、下層の強度順位
- ・第2要因を距離、市道・登山道から50mのバッファを設定したもの  
ID1番・・・全層火災で市道・登山道両方のバッファ内にあるもの  
ID2番・・・両者に一部が含まれるもの ID3番・・・一方だけに含まれるもの
- ・第1・第2の要件を採用した場合の再生の優先順位は、全層火災のID1、3、2の順。
- ・上記に準じる優先度は、上層火災箇所でもID1(黄色数字)2、5、12、15が該当。

※今回の報告では、GIS解析を付加したうえで優先順位の考え方を提示することができた。今後の森林再生事業の一助になれば幸いである。

②課題整理に対する意見交換

◆市農林課(森林再生に向けた対応)

・秋葉山焼損森林再生事業費について6月定例議会最終日に補正予算計上し可決。

①秋葉山再生連絡会議報償費、②秋葉山焼損森林再生検討基礎資料作成業務委託料、③秋葉山山小屋周辺植生実証事業検討業務委託料、④実証事業用環境整備工事

・再生連絡会議の継続開催し情報教諭や方向性の時期を捉えて高畠町とのプロジェクト会議の開催。砂防事業による危険除去等県との情報共有や事業研究を進めていく。一方では治山、保安林指定による森林再生事業の研究に努める。森林再生の手法については来春の芽吹きの確認、焼損状況に応じたゾーニングの検討、県立自然公園ですので小学生の登山や市民の方の憩いの場としてトレッキングや景観を楽しむというシンボリックな再生について早めに対応、再生会議の中で議論を深める。森林組合その他関係団体との再生支援に係る研究も一緒に知恵を拝借しながら精神文化や景観の再生に尽力していきたい。

◆市建設課(市道整備の対応)

・市道秋葉フルーツライン線の新設舗装工事について、県の許可を受け、工期7月24日から12月10日予定。496mの舗装と3カ所の待避所設置。通行止め期間中(8月28日～10月21日)に山に入る場合は1週間前までに市建設課に連絡いただくと調整します。

◆町農林課

- ・被災地の植生、被害の度合いをゾーニングして整備を行う。来春の芽吹きを視野に天然植生の回復。
- ・南陽市との合同プロジェクト会議の開催。被害範囲を確認するため7月中旬から下旬にかけてドローンによる現地確認を行う。
- ・町建設課において、雨期に目視によるパトロールを実施する。
- ・年内に第2回目の再生検討会を開催する。
- ・7月のドローン撮影の結果、予想より枯れている範囲が広がっていない印象。現場確認でも芽吹きがあるようだ。ドローン撮影を継続し、来春以降の様子を見ながら対策検討が必要。

◆県置賜総合支庁森林整備課

- ・南陽市については、これまでの植生調査を継続し、秋ごろ再度のドローンの撮影をして、状況の確認を行う。
- ・高畠町についても同様に現地調査を継続したい。

◆県置賜総合支庁環境課

- ・県庁の対応になるが、予算確保にむけた努力を継続。
- ・自然公園の許可関係について一覧表作成したので参考にさせていただきたいが、個別判断を要するものは

事前に相談願いたい。基本的に許可する方向で考えているので、必要に応じた手続きをお願いしたい。

・公園計画における公園事業として、許可申請があれば、一括対応も見込まれ(事務手続き上お互いに)個別対応より事務軽減を図れるかと…。将来見据えた形でのご検討を。

◆林野庁置賜森林管理署

・過去に起きた再生対策(桐生市、釜石市)の状況や林野火災と松茸に関する専門家の意見紹介と情報共有について説明。

◆米沢地方森林組合

・先日、秋葉山登山道支障木伐採を実施。今後、南陽市から受託した試験伐倒等のスケジュールに着手する。  
・南陽市秋葉山において、焼失木の伐採作業に要する時間、その他影響する要因等について検証を行う業務委託を受託中。今後担当相談しながら進める。

◆山形大学名誉教授

・西白河森林組合(福島県)において、昨年発生した山林火災の処理を農林中央金庫の「森力」の支援により対応中。下層火災で、根っこ付近と下枝が燃えており、それらが、1・2年後枯死木となる可能性が高いことに注目し、ドローンで林内撮影をしていることが注目点。

・秋葉山の場合、下層火災の面積が比較的多く、スギ林ではなく広葉樹林が主である。高島町も同様。来年度以降、下層火災の範囲内で枯死が発生する可能性について、何らかの形で確認しておいた方がよいと感じた。発生が目立つようであれば、ゾーニングの考え方も変わっていく可能性もでてくる。

・優先順位については、まさにゾーニングに係ってくる。ゾーニングは早ければ早いほどよいと思うが、当方の説明の内容については、あくまで当面の課題について優先順位を提示したもので、この優先順位がゾーニングに際し大きなウェイトを占めるわけではなく、あくまで検証要因のひとつになるものである。

あくまで、秋葉山周辺をどのような山にしたいのかという地元・市民の考え方が最優先と捉えているので、その地元からの意見徴収を比較的早く実施した方がよいのと思っています。地元の考えと行政の考えが食い違っていると後で問題になる。地元がどういった山にしたいのか、どのような山の景観を望んでいるのか、山頂からみた景観と、ふもとからみた景観大分違うと思われるので、その合意形成は必要かなと感じている。

◇南陽市長

・今後の枯死木の発生状況については、南陽市・高島町ともに中長期的に見ていかないとわからない。桐生市・釜石市では、翌年度にしっかりと再生計画をたてているので、南陽市・高島町共に春の萌芽をまっけての計画策定になるのかなと思っています。

◇高島町長

・高島町の場合、急斜面が多く1年経過しないと植生の変化についてはつかめないと思っている。今回の焼損エリア内のマツタケ生育箇所は一部に限定。林野火災により、マツタケもしばらくは発生しないと思われる。ふもとの一部の植林可能地形を除き、現況の地形では植林は困難かと思われる。所有者の財産区と協議しながら、森林再生を進めていきたい。

◇南陽市長

・桐生市も釜石市も比較的緩やかな場所に植栽している。南陽市、高島町それぞれの地形・傾斜をみて考えていくことになるが、当面の対応については、再生会議等での意見を踏まえ、きちんとした方針や計画を来年の春あたりの策定を目指していきたいと思う。

また、南陽市では、野堀教授からご提案のあった市民からの意見聴取の機会を設けていく。南陽市、高島町とも同じ時期に発生した林野火災の森林再生にむけて知見や情報を共有しながら進めていくので、引き続き関係者の皆様には、よろしく願いたい。

5その他

・秋葉フルーツライン舗装新設工事に係る通行止めについて(8月28日～10月21日予定)、調査等で入山される場合は一週間ほど前までに市建設課に連絡いただければ対応する。

6閉会(11:15) 高島町農林課長